

酪農における飼料用米の効果的な給与法の確立

自給飼料の中でも水田で安定的に生産できる飼料用米は、近年各地で取り組みが進んでいます。飼料用米は約70%のデンプン質と約8%のタンパク質、2～3%の脂肪を含んでおり、トウモロコシの栄養成分と同等であるため、濃厚飼料としての位置づけが出来ます。また、酪農経営における飼料費節減のためにも飼料用米の活用は有効です。

そこで、泌乳牛への飼料用米の給与による産乳性や牛の健康に及ぼす影響を明らかにし、飼料用米による濃厚飼料の代替給与法を確立しました。

[主な特徴および内容]

濃厚飼料の代替として粉砕した飼料用米を給与し、産乳成績や牛の健康に及ぼす影響を調査しました。試験での給与飼料をモデルとし、飼料費の試算を行いました。

	慣行飼料	粉砕玄米
乳量 (kg)	22.1	21.6
飼料費 (円/頭・日)	957	917

表 乳量および飼料費の比較



図 粉砕した飼料用米

[主な成果]

- ・飼料用米の給与による産乳性および牛の健康への影響について
乳量22kg/日程度の泌乳牛には、濃厚飼料の代替率50%（代替量4kg/日）程度であれば、産乳性や牛の健康を損なうことなく粉砕した飼料用米（玄米）を利用することが可能です。
- ・飼料用米の処理方法
飼料用米は5mm メッシュを通過する程度の大きさに粉砕処理等を行い表面に傷をつけることで、配合飼料と同等の消化率が得られます。

[期待される効果]

飼料用米による配合飼料の代替試験の給与メニューをモデルに試算したところ、1日当たり40円/頭の飼料費の削減が可能であると試算されました。

飼料用米の利用が拡大されることで、乳量を維持したまま飼料費の削減が可能となり、輸入飼料の価格変動に強い酪農経営につながります。